

## 個人投資家様向け説明会資料

富士電機株式会社【証券コード 6504】

2025年3月

©2025 Fuji Electric Co., Ltd.

本日は富士電機株式会社の説明会にご参加いただきありがとうございます。  
当社は2023年に創立 100 周年を迎えた企業ですが、BtoB ビジネスを基本としており、なかなか個人投資家の皆様には馴染みがない企業かもしれません。また、昔の富士電機をご存知の方は重電の会社という印象が強いかもしれませんが、最近ではデータセンター向けの無停電電源装置(UPS)やパワー半導体を手がける会社としてマスコミなどに取り上げられています。  
本日は現在の富士電機が手掛ける事業や、将来こういった成長の可能性を秘めているのかを知っていただければ幸いです。

1. 会社情報
2. 事業概要
3. 業績推移・中期経営計画
4. 環境への取り組み
5. 株主還元、社外評価

それでは、資料に沿って説明いたします。

## 1. 会社情報

まず、会社情報です。

**社 名** 富士電機株式会社

**設 立** 1923（大正12）年8月  
古河電気工業（株）とシーメンス社との  
合併により富士電機製造（株）設立

**資本金** 476億円

**本 社** 東京都品川区大崎

**代表者** 代表取締役会長CEO 北澤 通宏  
代表取締役社長COO 近藤 史郎

**連結子会社数** 68社

（国内20社、海外48社）

※2024年3月末時点

**連結従業員数** 27,325名  
（国内17,340名、海外9,985名）

※2024年3月末時点

**役員** 取締役 10名（内、社外 4名）  
監査役 5名（内、社外 3名）

※2024年6月25日時点



代表取締役会長CEO  
北澤 通宏



代表取締役社長COO  
近藤 史郎

©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 4

当社は1923年、古河電機工業とドイツのシーメンス社との技術資本提携によって設立されました。

富士電機の社名の由来は、富士山の富士ではなく、古河の「ふ」と、シーメンスはドイツ語読みでジューメンスと読みますので「じ」、その頭文字を取って名付けられました。

資本金は 476億円、本社は東京品川区の大崎にあります。

代表者は会長CEOの北澤と社長COOの近藤の2名体制となっています。

（2022 年の4月に変更があり、2010 年から社長を務めていた北澤が会長CEOに就任）

連結子会社数はグローバルで68 社。連結の従業員数約2万7000名で、うち海外が約3分の1です。

役員構成は取締役 10 名の内、社外が4名、監査役5名の内、社外が3名です。

当社の事業特性や経営方針に照らして必要なスキルを持った方々を選出しております。

企業行動基準に基づき、経営理念、経営方針を实践  
社会・環境課題の解決、お客様価値の創造に応え  
SDGsの発展と安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献



富士電機の存在意義です。

経営理念に掲げる「豊かさへの貢献」や「自然との調和」、さらに経営方針に掲げる「エネルギー・環境事業で持続可能な社会の実現に貢献」は、まさに、国連が提唱するSDGs、持続可能な開発目標の理念そのものであります。

当社は社会・環境課題の解決、お客様価値の創造を通じてSDGsの達成に貢献するということを社内外に表明し、企業活動を行っております。

## 経営理念

富士電機は、地球社会の良き企業市民として、  
地域、顧客、パートナーとの信頼関係を深め、  
誠実にその使命を果たします。

■豊かさへの貢献 ■創造への挑戦 ■自然との調和

## スローガン

熱く、高く、そして優しく

## 経営方針

1. エネルギー・環境技術の革新により、安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。
2. グローバルで事業を拡大し、成長する企業を目指します。
3. 多様な人材の意欲を尊重し、チームで総合力を発揮します。

経営理念、経営方針は記載のとおりです。

富士電機は「熱く、高く、そして優しく」これをスローガンとしています。

熱くは、新しい技術や製品を生み出し社会に貢献するという熱い心、

高くは、高い目標を掲げ、どんなに困難でも立ち向かっていく気概、

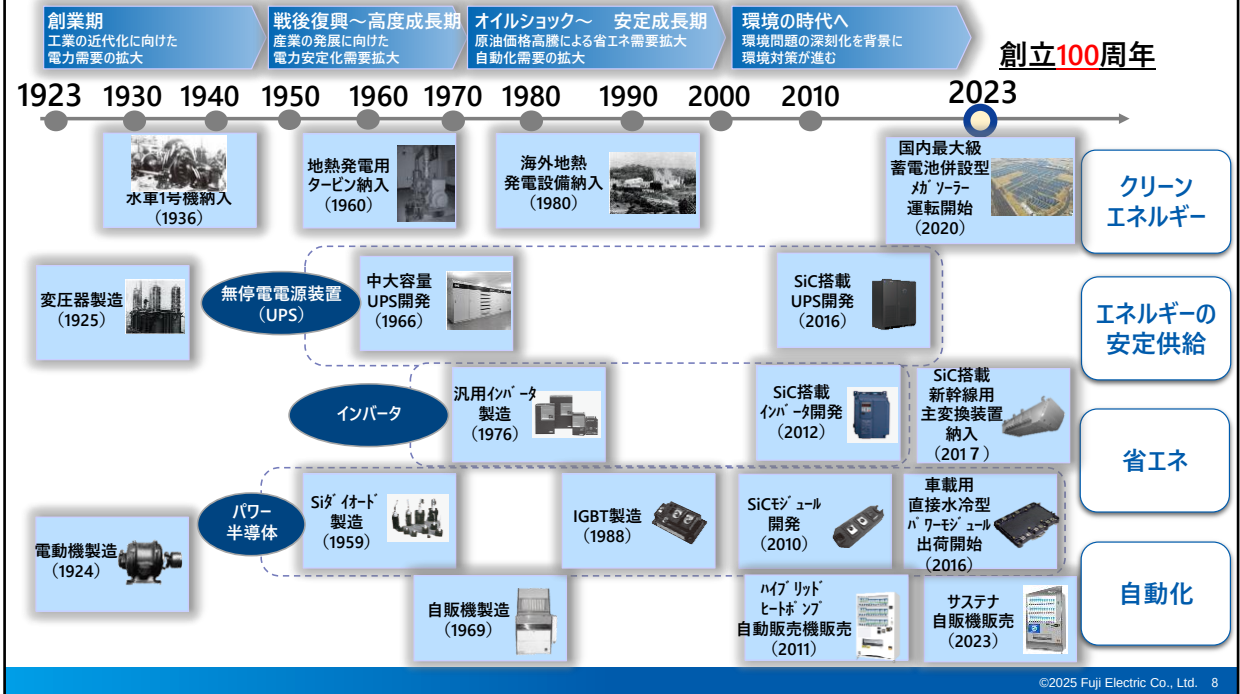
そして優しくは、富士電機のDNAとも言えるお客様や仲間、支えてくれている家族に感謝し、大切に思う優しさ。

このスローガンを全社員が共有し、事業運営を行っております。

## 2. 事業概要

次に事業概要です。

## パワーエレクトロニクスの進化とともに社会・環境課題の解決に貢献



まず、製品を中心に富士電機の歴史についてご説明します。

当社は1923年、設立、営業開始し、創業期は、工業近代化の時代において電力需要が高まり、電動機や変圧器、発電設備などが活躍しました。

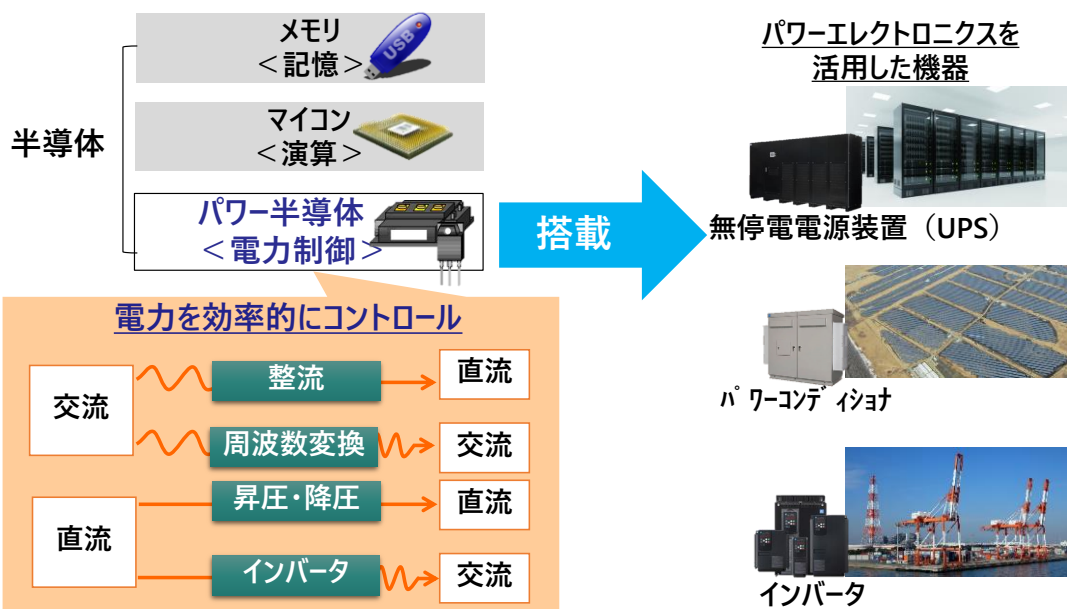
高度成長期においては産業の発展に向けて電力安定化の需要が拡大し、また、オイルショック後は省エネや自動化の需要が拡大するなど、電力制御のニーズが高まってきます。

こうした電力制御に関わる製品がUPS、インバータ、パワー半導体であり、当社のコア技術であるパワーエレクトロニクスを使った代表的な製品です。

このように社会と産業の発展に伴い、電気をつくる製品から、電気を制御する製品へと、社会に役立つ技術と製品を生み出し、クリーンなエネルギーの創出、エネルギーの安定供給、省エネ、自動化といった社会・環境課題の解決に貢献してきました。



パワーエレクトロニクスとは半導体などを用いて電力を変換・制御する技術  
電力を無駄なく変換・制御することで省エネを実現



ここで当社のコア技術であるパワーエレクトロニクスについて簡単に説明します。パワーエレクトロニクスとは半導体を用いて電力を変換・制御する技術であり、電力を無駄なく変換制御することで省エネを実現します。半導体には様々な種類がありますが、富士電機の半導体は、いわゆるパワー半導体というもので、電力を制御する役割を担っています。例えば交流から直流、直流から交流に変換したり、周波数を変換したり、電圧を上げたり下げたり、といった制御を行います。この制御をする際には電気の損失が生じるわけですが、その際の損失をいかに少なく抑えるかが技術的な肝であり、お客様のニーズともなります。当社は世界トップクラスのパワー半導体を自社のインバータなどに搭載し、高品質な製品をお客様に届けることが強みとなっております。

コア技術のパワー半導体とパワーエレクトロニクスにより、  
エネルギーの安定供給、省エネ、自動化を実現



©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 10

富士電機の事業内容です。

世界トップクラスの性能を誇るパワー半導体とこれを搭載したインバータなどのパワエレ機器に制御技術を組み合わせたシステムでお客様に「クリーンなエネルギーの創出」「エネルギーの安定供給」「省エネ 自動化」を実現しています。

当社の強みは、

- 1) パワー半導体とパワーエレクトロニクスをコア技術とした垂直統合モデル、
- 2) クリーンなエネルギーの創出からエネルギーの安定供給、省エネまで自社の総合力で対応できること、です。

## セグメント別売上高/営業利益

### 食品流通

- ・自販機
- ・店舗流通



冷凍・冷蔵ショーケース



自販機



カウンター什器

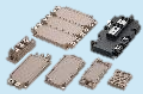
国内・中国シェア 1位※

### 半導体

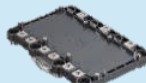
- ・産業
- ・電装



SiCモジュール



IGBTモジュール



車載IGBT

IPM

世界シェア 3位※

### エネルギー

- ・発電プラント
- ・エネルギーマネジメント
- ・施設・電源システム
- ・器具

世界シェア 1位※



地熱発電設備

世界シェア 1位※



大容量整流器



無停電電源装置 (UPS)

国内シェア 1位※



電磁開閉器

### インダストリー

- ・オートメーション
- ・社会ソリューション
- ・設備工事
- ・ITソリューション

国内シェア 2位※



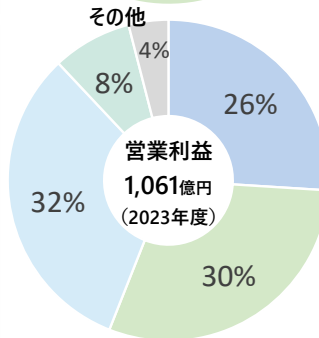
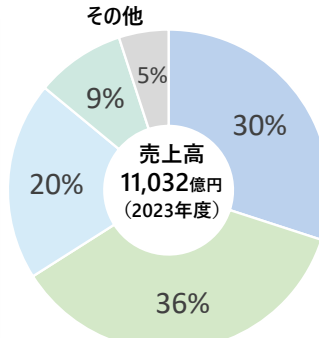
低圧インバータ



プロセス制御システム



鉄道車両用電機品

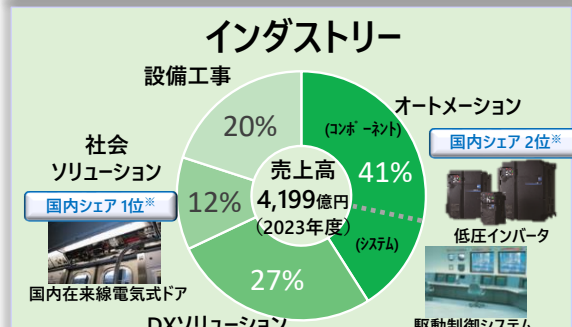
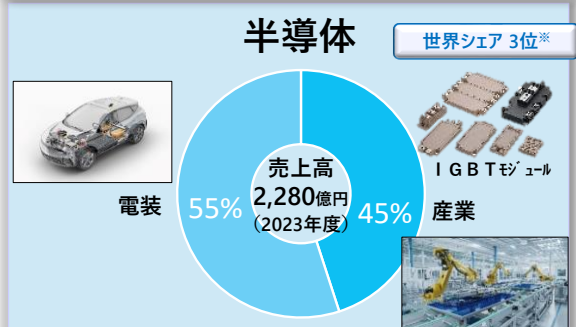
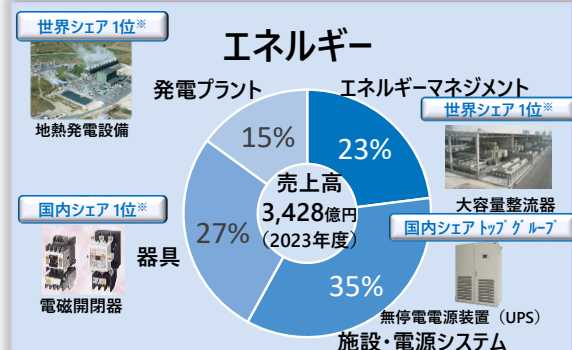
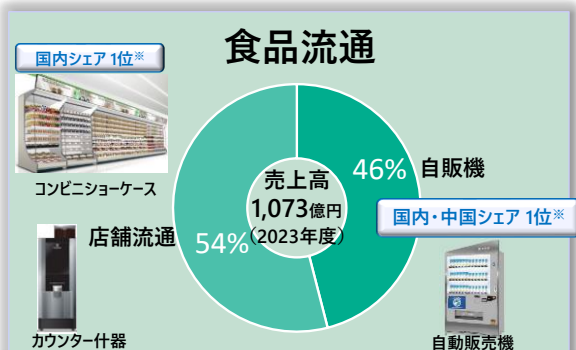


※シェアは2023年度実績。当社調べ。

※構成比率はセグメント間の内部取引等を消去・調整する前の金額に基づき算出。

当社の事業はエネルギー、インダストリー、半導体、食品流通の4つのセグメントで構成されています。  
セグメント別の売上高・営業利益の構成比は資料に記載のとおりです。

## サブセグメント別売上高



※シェアは2023年度実績。当社調べ。

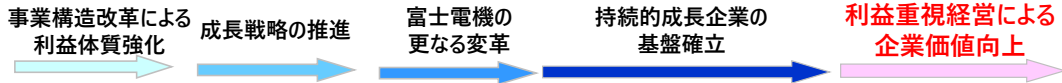
※構成比率はセグメント間の内部取引等を消去・調整する前の金額に基づき算出。

4つのセグメントにおける  
サブセグメント別の売上高構成比は資料に記載のとおりです。

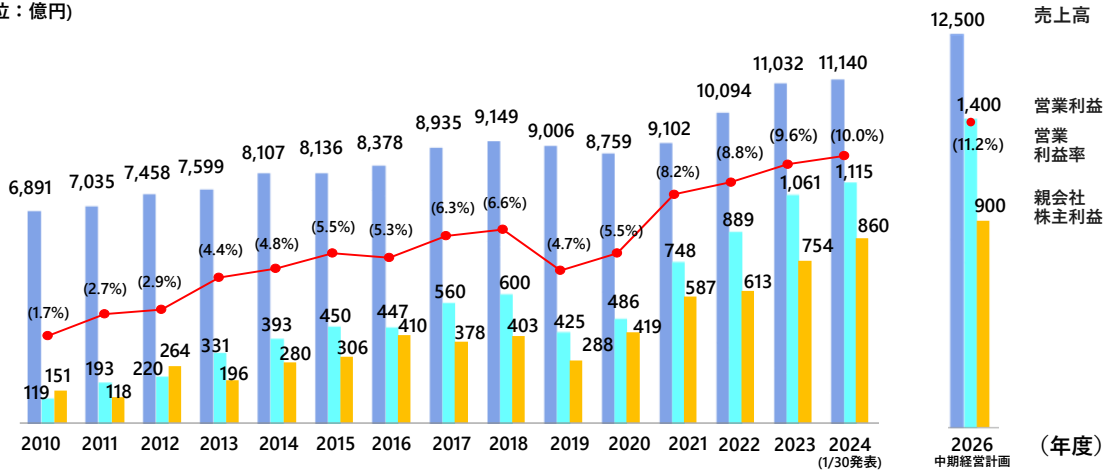
### 3. 業績推移・中期経営計画

次に業績推移と中期経営計画についてご説明します。

# 業績推移



(単位：億円)



|        |      |      |       |      |       |       |       |       |       |      |       |       |       |       |   |
|--------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|---|
| 自己資本比率 | 19%  | 21%  | 25%   | 28%  | 32%   | 27%   | 33%   | 36%   | 37%   | 37%  | 40%   | 42%   | 44%   | 47%   | - |
| ROE    | 9.0% | 7.4% | 14.7% | 9.3% | 10.8% | 11.8% | 15.7% | 12.1% | 11.8% | 8.0% | 10.7% | 13.2% | 12.4% | 13.5% | - |

|             |        |        |
|-------------|--------|--------|
| 2026 中期経営計画 | 50% 程度 | 12% 以上 |
|-------------|--------|--------|

©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 14

こちらは2010年以降の業績推移です。

当社はリーマンショックの影響を受けた2008年度には約700億円の赤字を計上しました。

その後2010年4月に現会長CEOの北澤が社長に就任し、2010年代前半までは業績回復期として、事業ドメインをエネルギー・環境事業に定め、内製化の拡大を通じた「ものづくり力」の立て直しなど構造改革に取り組み、生産拠点の再編も行い、利益体質を徹底的に強化しました。

2013年頃から攻めの経営に転じ、パワーエレクトロニクスとパワー半導体技術をベースとする事業の強化に取り組むとともに、海外事業の拡大に向け、地産地消を基本にM&Aや協業を積極的に推進してきました。

2019年～2023年度の前中期経営計画では売上高1兆円、営業利益率8%以上を目標に掲げ、営業利益率は2年前倒しで目標達成、売上高も1年前倒しで達成し、創業100周年となる2023年度には時価総額も1兆円を超えました。2026年度には、売上高1兆2,500億円、営業利益1,400億円、純利益900億円を計画しています。

## 基本方針

## 利益重視経営による更なる企業価値向上

## 重要経営目標

- 利益：営業利益率11%超、純利益率7%超
- 財務指標：ROE12%以上、ROIC10%以上堅持
- 生産時のGHG排出量29%削減
- 会社満足度3.8pt以上

## 重点戦略

### 収益力の強化

- ・資本コストを意識した事業運営
- ・デジタルを活用した生産性の向上

### 成長戦略の推進

－成長分野への集中投資－

- ・新製品投入による事業拡大
- ・海外事業の拡大
- ・2027年以降の売上拡大に貢献する新事業の創出



### 経営基盤の強化

#### 社 会

従業員ファースト  
ウェルビーイング（WB）

#### 環 境

環境ビジョン2050の推進

#### ガバナンス

コンプライアンスの徹底  
リスクマネジメントの強化

※GHG：温室効果ガス

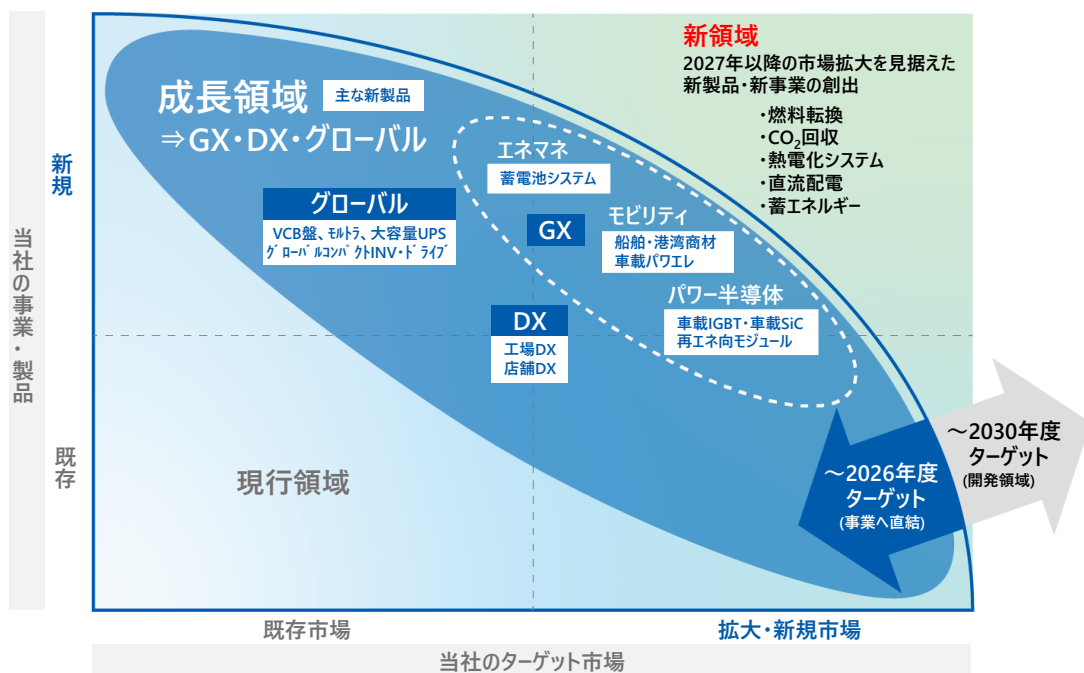
©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 15

現在の2026年度中期経営計画では、改めて、利益重視の経営によって、更なる企業価値の向上を目指しています。

重要な経営目標として、営業利益率は11%超、純利益は7%超、財務指標としてROEは12%以上、ROICは10%以上を堅持しながら成長投資を進めていきます。

重点施策として、収益力の強化、成長戦略の推進、経営基盤の強化を推進していますが、特に2027年以降の売上拡大に貢献する新事業の創出に注力しています。

## 成長領域において事業を拡大



©2025 Fuji Electric Co., Ltd.

新事業を創出し、2026年度までの3年間で業績に貢献するかというと、難しい部分もあると考えています。

この図には異なった時間軸で売上や損益に貢献すると考えられる領域を示しています。

グローバル、GX、DXを2026年度までの成長に貢献する領域として定義し、さらにその先の2027年度以降、2030年度を見据えた新領域において新事業を展開する計画です。

これら現行領域、成長領域、新領域の三つに分けて適正な投資配分を行いながら成長戦略を推進していきます。



## 4. 環境への取り組み

環境への取り組みについてご説明します。

富士電機の革新的クリーンエネルギー技術・省エネ製品の普及拡大を通じ  
「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現を目指します

## 脱炭素社会の実現

サプライチェーン全体でカーボンニュートラルを目指します

## 循環型社会の実現

## 自然共生社会の実現

### 2030年度目標

産業革命前と比較した温度上昇を1.5°Cに抑えるため、以下の目標達成を目指します。

- |                                 |             |
|---------------------------------|-------------|
| ● サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量          | 46%超削減※     |
| ● 生産時の温室効果ガス排出量                 | 46%超削減※     |
|                                 | ※2019年度比    |
| ● 製品による社会のCO <sub>2</sub> 削減貢献量 | 5,900万トン超/年 |

世界の環境規制に対応しながら、サーキュラーエコノミーを目指します。

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| ● エコデザイン規則に適應した<br>環境配慮型製品への移行 | ● 廃棄物最終処分率（廃プラ含む）<br>0.5%未満 |
|--------------------------------|-----------------------------|

©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 18

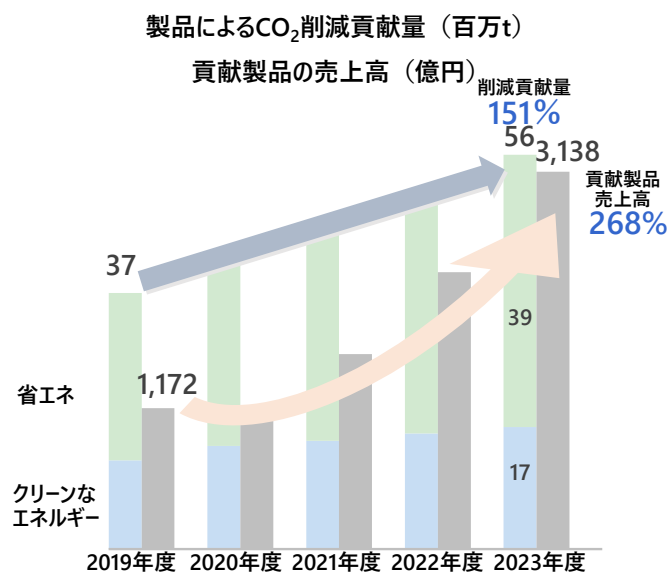
富士電機はエネルギー・環境事業を本業としており、その本業で環境に貢献できるといことが強みです。

昨今、世界的に脱炭素に向けた動きが加速していますが、当社は早くから環境経営への意識を持ち、1997年に環境基本保護方針を制定しました。環境ビジョン2050は2019年度に制定したのですが、長期視点でカーボンニュートラル、環境負荷ゼロを目指すことを骨子としています。

2030年度の定量目標としては

- ① サプライチェーン全体の温室効果ガス排出削減、
  - ② 自社の生産時における温室効果ガス排出削減、
  - ③ 自社製品による社会のCO<sub>2</sub>削減貢献、
- の3つを掲げ、目標達成に向けて取り組んでいます。

## 2023年度56百万トン超のCO<sub>2</sub>削減に貢献 CO<sub>2</sub>削減に貢献する製品の売上高は約2.7倍に拡大（2019年度比）



### <CO<sub>2</sub>削減に貢献する製品例>

#### ■省エネ



インバータ



パワー半導体



モータ



自動販売機

#### ■クリーンなエネルギー



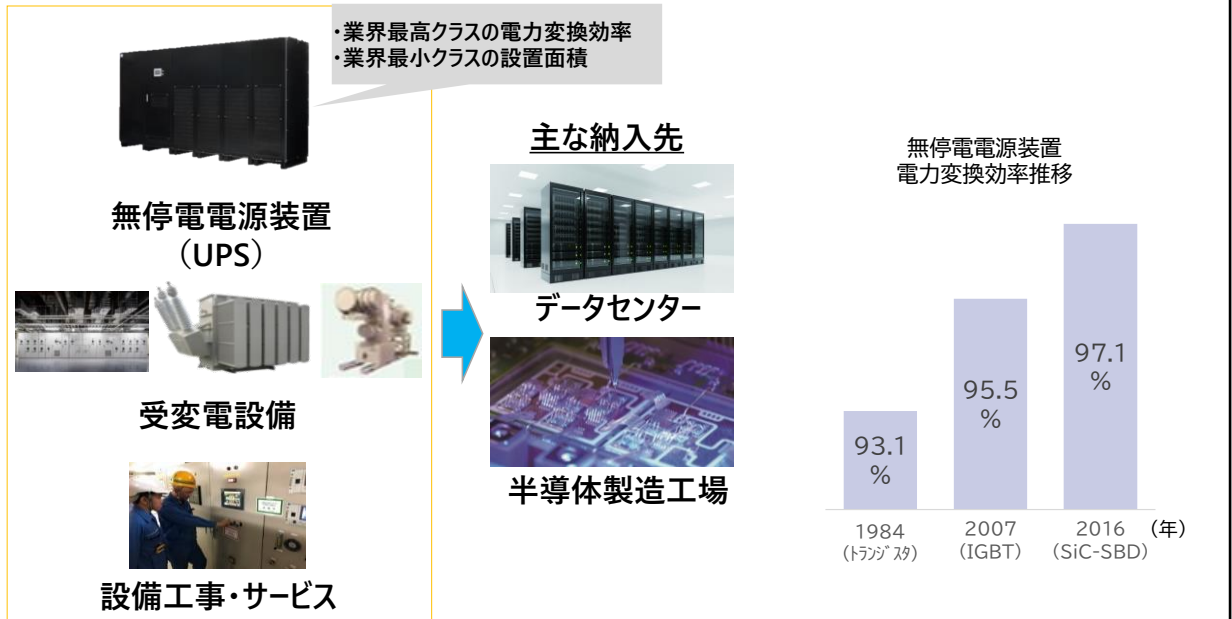
地熱発電



水力発電

製品によるCO<sub>2</sub>削減貢献について詳しくみていきます。  
CO<sub>2</sub>削減貢献の対象となる製品には、地熱や水力発電などのクリーンなエネルギーや、インバータやパワー半導体など省エネ性能を高めることでCO<sub>2</sub>削減に貢献する製品が対象になっていますが、  
これらの製品群の売上拡大に伴い、CO<sub>2</sub>削減貢献量も増えています。

## エネルギーの安定供給に貢献する省エネ・省スペースな無停電電源装置に加え 周辺の電気設備や工事・サービスまで一括提供



©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 20

ここからは環境に貢献する主力製品について紹介します。

まず、エネルギーの安定供給です。

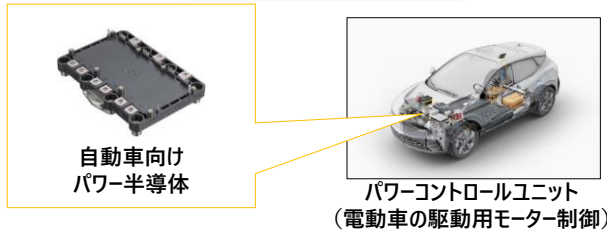
UPSは24時間の安定稼働が欠かせない工場や施設で必須の設備となっており、当社の主な納入先は、データセンターと半導体製造工場があります。

省エネ・省スペースなUPSに加え、受変電/配電設備や工事・サービスまでワンストップで提供できることを強みに、グローバルの大手企業様から継続的な受注を獲得しています。

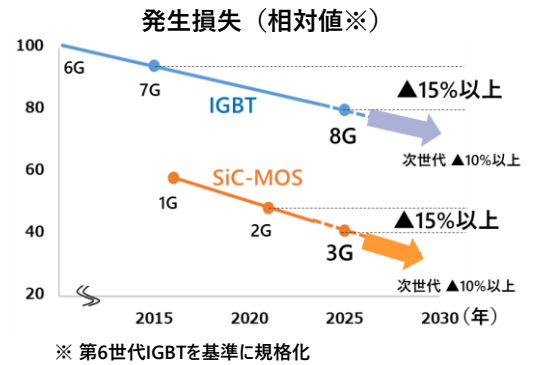
とりわけデータセンターは今後も国内外で市場拡大が見込まれており、今後も受注活動を強化していきます。

## パワー半導体により省エネ、高効率化、小型化に貢献

### 電装（自動車）分野



### 産業分野



©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 21

パワー半導体による省エネです。

パワー半導体は省エネのキーデバイスであり、当社は電装分野と産業分野向けにグローバルで展開しております。

電装分野では、ガソリン車から電動車へのシフトが進むなか、当社のパワー半導体は電動車の駆動用モーターの制御を担う

パワーコントロールユニットと呼ばれる部分に使われています。

今後も電動車の普及に伴い、需要の増加が見込まれます。

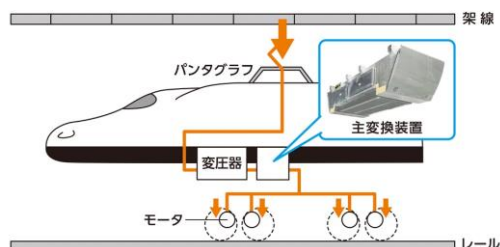
産業分野では、インバータなどを製造する外部のお客様に納入するほか、自社の製品にも搭載しています。

産業設備の自動化や省エネ化に伴い、パワー半導体の需要は今後も伸長が期待できます。

パワー半導体は電力変換時の損失をいかに減らしていくかが重要であり、技術的な優位性となります。

当社は足元ではさらなる低損失を実現するSiCを用いた製品へのシフトを進めており、生産能力を拡大していく計画です。

## インバータによりモータの回転をコントロールし、省エネを実現



東海道新幹線N700Sの主変換装置

- ・国内の全電力消費量に占める  
モータの電力消費量 約55%  
産業機器のインバータ装着率 約25%
- ・キーデバイスのパワー半導体を内製し  
省エネ性能を追求

- ・初代0系新幹線の半分以下の消費電力
- ・主変換装置が最初に導入された300系比  
出力+42% 重量▲69%

©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 22

次にインバータによる省エネです。

インバータはモータの回転を制御して無駄な電力消費を省く装置です。

当社のインバータは工場やビルの空調、ポンプ、クレーンなどの搬送装置で多く使われていますが

日本の産業機器のインバータ装着率が約25%というデータがあり、まだまだ普及の余地があります。

また、インバータは新幹線を動かす電力変換装置にも使われており、大幅な省エネ、小型化に貢献しています。

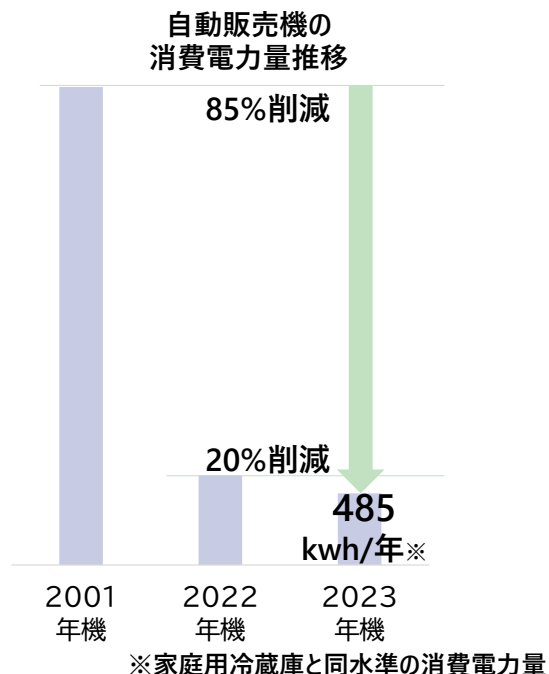
当社はインバータをグローバルで展開し、今後も売上拡大に取り組めます。

## 冷熱技術を活用し、高い省エネ性能を実現



サステナ自販機  
(2023年度省エネ大賞 経済産業大臣賞受賞)

- ・前世代機と比べて最大20%の省エネ
- ・通信機能により売上、在庫状況の把握  
在庫補充に係る省人化、CO<sub>2</sub>削減



©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 23

当社は自動販売機で国内7割のシェアを持つトップメーカーとして飲料メーカーとともに、日本国内に200万台以上設置されている自動販売機の省エネ化にも取り組んでいます。

最新の自動販売機では、これまで積み上げてきた冷熱技術のノウハウにパワーエレクトロニクスを組み合わせ、更なる省エネを実現。

通信機能を活用し省人化にも寄与しており、2023年度の省エネ大賞にも選ばれています。

## 成長領域の伸長と新事業の創出を推進



©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 24

富士電機にはエネルギーを作るビジネスがあり、それを安定的に供給するビジネス、そして需要家サイドの省エネ・自動化・電化、さらにデジタル化の進展を通じて供給サイドから需要サイドへ横串を刺して、需給の最適化を実現しています。

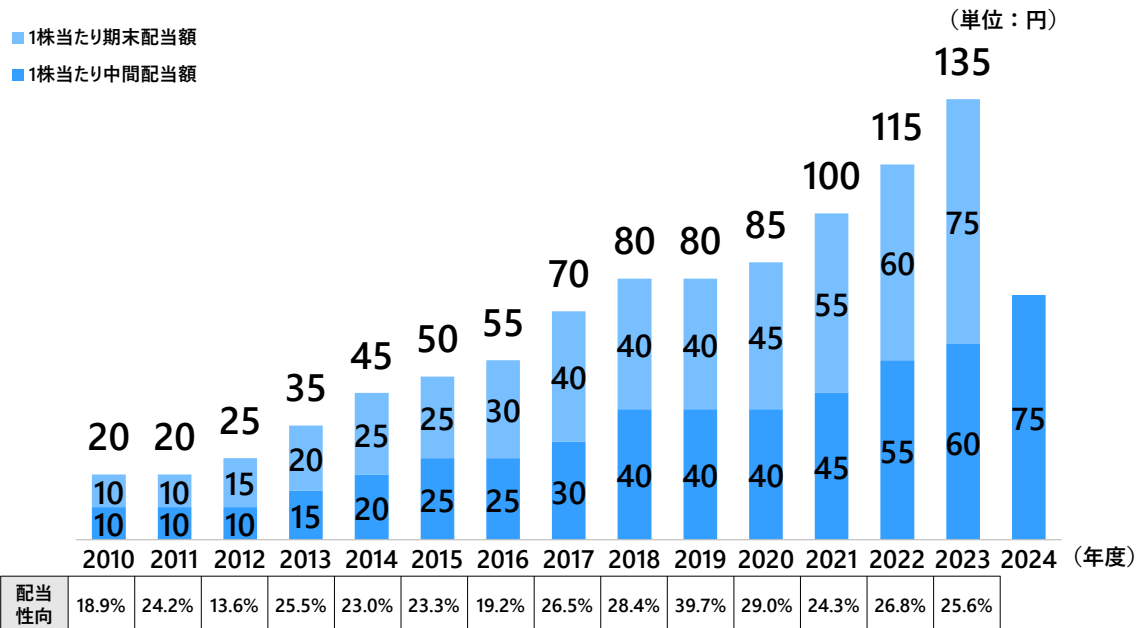
当社のリソースを活用し、成長領域においてお客様のGX/DXに貢献するとともに燃料転換、水素アンモニアに関わるビジネス、直流配電のような新しい電気の送り方、発電設備のCO<sub>2</sub>の分離回収といった新たな領域においても事業を創出し、今後もエネルギー・環境への貢献と企業価値の向上の両立を図っていきます。



## 5. 株主還元、社外評価

株主還元と社外評価についてご説明します。

## 安定的・継続的な配当を基本方針とし、配当性向30%を目安に株主様に還元



※配当は、2018年10月1日の株式併合を考慮し算出

©2025 Fuji Electric Co., Ltd. 26

当社は安定的・継続的な配当を基本方針とし、配当性向30%を目安に株主様に還元しております。

2010 年度以降推移を資料に示しておりますが、業績の向上とともに配当も年々増やしてきています。

## 株主様への発行物

富士電機の業績・事業状況について、  
四半期ごとにレポートを発行。  
年1回発行の富士電機レポート（統合報告書）では  
当社の全容をご理解いただくことを目的として  
長期的な企業価値向上に向けた取り組みや  
ESGの主要課題を紹介しています。



株主様向け四半期報告書



富士電機レポート

## 工場見学会

富士電機の企業活動について一層のご理解を  
いただくため、工場見学会を実施しています。

（応募者多数の場合は抽選）

2024年度実績：千葉工場、三重工場



工場見学会の様子

## 株主優待

オリジナルカレンダーを進呈しています。

（応募者全員）



2025年版カレンダー

株主様向けの取り組みについて3点ご紹介します。

1つ目は報告書のご提供です。四半期ごとの株主報告書は株主様全員にお送りし、年1回発行する統合報告書は希望者の方に全員にお送りしております。

2つ目は工場見学会です。

当社は株主様との直接のコミュニケーションを大切にしており、企業活動についてご理解いただく上で、利益の源泉となる工場の現場を見ていただくことを重視し、株主様向けに工場見学会を10年以上前から開催しております。

工場見学会は非常に高い評価を受けており、応募者多数の場合は抽選を実施させて頂いてます。

3つ目は株主優待としてオリジナルカレンダーを応募者全員に進呈しております。

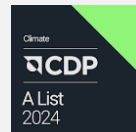
### ESGに関する評価



環境・社会・ガバナンスのグローバル・スタンダードを満たす企業として、「FTSE4Goodインデックスシリーズ」の構成銘柄に9年連続で選定。



環境、社会、ガバナンス（ESG）について優れた対応を行っている企業として「MSCI World ESG Leaders Index」の構成銘柄に、2年連続で選定。



気候変動に対する取り組みとその情報開示により、環境分野で世界的に権威のある「CDP Aリスト」に6年連続で選定。

### IR活動の評価

IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業として、一般社団法人日本IR協議会が主催する「IR優良企業賞2022」において、IR優良企業賞を受賞。



### IR Webサイトの評価

ウェブサイトの使いやすさや情報の充実度が評価され

（株）ブロードバンドセキュリティの「Gomez IRサイトランキング」で金賞を受賞。  
（上場企業3,838社中6位）

大和IR（株）の「インターネットIR表彰」でも優良賞を受賞。



社外からの評価についてです、  
ESG（環境、社会、ガバナンス）に関してはグローバルで知名度の高い評価機関から評価を受けています。  
IR活動においては、2022年度に日本IR協議会からIR優良企業賞を受賞しました。  
IRのWebサイトにも力を入れており、毎年表彰をされております。

## エネルギー・環境事業で 持続可能な社会の実現に貢献

## 環境貢献と利益成長を両立し 持続的成長を実現

本日説明した内容のまとめをさせていただきますが、お伝えしたいことは2点です。

富士電機はエネルギー・環境事業で持続可能な社会の実現に貢献することを使命としており、社会に必要とされている会社であるということが1つ目です。

2つ目は脱炭素社会に向けてビジネスチャンスが広がっており、当社は環境貢献と利益成長を両立させて持続的成長を遂げていくことができる会社であるということです。

本日の説明会は限られた時間のなかで富士電機の入門編の話しかご説明できませんが、当社にご関心をお持ちになった方々は是非当社のことを今後も調べていただき、注目をしていただければと思います。

本日はどうもありがとうございました。

1. 本資料に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、  
弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。  
その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、  
実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、  
将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
2. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘する  
ものではありません。
3. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。